

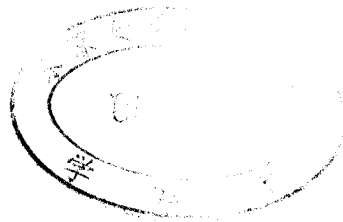
## テュートリアル課題 抗生物質が効かない

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-10-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/10860">http://hdl.handle.net/10470/10860</a>

2005年度 B l o c k . 5

課 題 N o . 3

「抗生物質が効かない」



※ この冊子は無償で配布されていますのでご活用ください。

シート 1

ある 6 月の上旬、45 歳男性の緑川さんは 3 日前から咽頭の痛み、鼻閉感があり、会社近くの診療所を受診しました。風邪と診断され、セファクロルという抗生物質を処方されました。

[抽出を期待する事項]

抗生物質の種類、作用機序、選択基準

市中感染

風邪症候群

シート 2

次第に緑川さんには頭痛と吐き気も出てきました。前回の診療所を再度受診したところ血液検査、鼻咽頭の培養検査を施行され、別の抗生物質・クラリスロマイシンを処方されました。しかし緑川さんの症状は良くなりません。緑川さんは診療所に電話をしました。

医師：前回の血液検査で白血球数が 19000 / $\mu$ l と高く、炎症のマーカー、CRP も 24.0 mg/dl と高値です。紹介状をお書きします。

紹介状をもらい、大学病院受診の予約を取ろうとしていたら、突然、痙攣発作が起きました。家族が救急車を呼び、近くの救急病院に運び込まれました。緑川さんは3年前に特発性血小板減少性紫斑病になり、脾臓を摘出されていました。

[抽出を期待する事項]

薬剤耐性菌

感染症に伴う頭痛、吐き気—髄膜刺激症状、髄膜炎の鑑別診断  
痙攣発作を起こす疾患の鑑別診断

髄膜炎とその起因微生物

脾臓摘出術の適応とその感染防御に及ぼす影響

シート3

救急病院に着いた時、緑川さんの痙攣はおさまっていました。救急救命科の当直医が診察したところ、脈拍 130/分、血圧 120/80mmHg、体温 40.3 °Cで、頸部硬直を認めました。頭部 CT では異常は認められませんでした。当直医は腰椎穿刺を施行しました。髄液は混濁しており、グラム染色で写真のような菌が認められました。併せて血液培養も行われ、セフトキシム 2 g X 2 (iv q12h) が緑川さんに投与されました。当直医がそのまま受け持ち医（主治医）になりました。

[抽出を期待する事項]

細菌性髄膜炎の診断と治療

グラム染色

髄膜炎の診断

肺炎球菌の診断、病原性、引き起こす感染症とその治療

血液培養

シート 4

緑川さんの熱は下がりません。主治医は感染症科にコンサルテーションを行いました。髄液と血液から血清型 23F の肺炎球菌が検出されました。主治医は最小発育阻止濃度 (MIC) の結果から抗生物質をパニペネム 1 g X 4 (iv q6h) に変更するよう指示されました。その後、解熱し、炎症所見も正常化しました。

学生さんは主治医になりかわって、緑川さんに検出された肺炎球菌についての説明と質問への回答をしてください。

主治医：.....

緑川さん：なぜそんな抗生物質の効かない菌が増えたのですか。

主治医：.....

[抽出を期待する事項]

肺炎球菌の薬剤耐性基準と薬剤耐性機構

薬剤耐性肺炎球菌感染症の治療

肺炎球菌の血清型

最小発育阻止濃度 (MIC) と抗生物質選択

カルバペネム系抗生物質の適用

薬剤耐性肺炎球菌の世界、国内での蔓延状況と抗生物質濫用との関連

シート5

主治医：緑川さんは脾臓を取っていますので、肺炎球菌に対する抵抗力が落ちています。今後、肺炎球菌に感染しないようワクチンを打ちましょう。

緑川さん：前の病院ではそのような説明はなかったのですが。

主治医：日本ではまだ、ワクチンに対する認識が十分ではありませんし、毛嫌いする方も少なくありませんが、緑川さんには肺炎球菌ワクチンが必須です。

緑川さんは主治医の説明に納得して肺炎球菌ワクチン接種を受けました。緑川さんはその後肺炎球菌感染症にかかることなく、今も元気に仕事を続けています。また、診療所に風邪症状でかかって抗生物質を処方されると、必ず医師に説明を求めるようになりました。

[抽出を期待する事項]

肺炎球菌感染症の予防

肺炎球菌ワクチンの種類、適応、血清型との関係

ワクチンの問題点、副作用

インフォームド・コンセント